

授業科目名	医学概論	単位数	2
担当教員名	吉田 保男	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	医師である教員が経験と専門的知見をもって学修指導を行っている。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概の助長を担うべきものがある。</p> <p>共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 医学の歴史の概要を学び、特に20世紀後半以降急速に発達した診断技術と治療法の変遷を理解する。</p> <p>(2) 人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の概要を理解することは医学の基本であり、医療に係わる福祉関係の仕事に携わる場合にも必要不可欠のものである。</p> <p>(3) 現代社会の代表的な疾病、生活習慣病、感染症、高齢者の疾病その他についての理解を深める。</p> <p>(4) 高齢社会に伴いなんらかの障害を有する人々は増加するが、福祉とも特に関連の深いリハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>(5) 公衆衛生の現状と保健医療対策の概要を理解する。</p> <p>(6) 医療保険制度を中心とした医療システムと、医師患者関係のあり方について考察する。</p> <p>(7) 多くの職種にわたる医療従事者と医療施設について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、保健・医療・福祉の連携が重要視されるようになり、社会福祉関係の分野で働く場合にも、基礎的な医学の知識が要求されるようになってきた。対象とする「人」に対する精神や身体への知識が十分でなければ、真の意味で社会福祉の仕事は全うされにくいことと思われる。心や体に問題がある場合には、それを早く見抜いて医療に結びつけ、問題を解決する必要がある。社会福祉関係の仕事に要求される医学の知識を得るために、まず、基本を医学一般で学ぶ。</p> <p>人体の構造、代表的な疾病、公衆衛生、保健や医療のサービスなどに係わる知識を習得するよう努めていただきたい。医療関係の法令や医療関係の職種などに関する知識も、連携を取るには必須である。しかし、医学一般で学んだことは、社会福祉関係の仕事に就かなくても、生きてゆくためにきっと役立つことでしょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：近代医学の歴史</p> <p>第2回：近代医学の発展</p> <p>第3回：人体の構造と機能</p> <p>第4回：現代社会の疾病（生活習慣病、感染症）</p> <p>第5回：現代社会の疾病（高齢者の疾病、神経疾患）</p> <p>第6回：現代社会の疾病（精神疾患・精神保健、難病）</p> <p>第7回：リハビリテーションの概要</p> <p>第8回：公衆衛生の現状（人口動態）</p>			

第9回：公衆衛生の現状（保健所と市町村保健センターの活動）

第10回：保健医療対策（国民健康づくり対策）

第11回：保健医療対策（メタボリックシンドローム対策）

第12回：医療提供体制の現状

第13回：高齢化社会への対策

第14回：医師と患者のヒューマンリレーション

第15回：まとめ

定期試験

学修内容

レポート：教科書を通読し、それに関連した参考文献やインターネットで資料を集め、理解を深める。単に文章を写すのではなく、資料をもとにして自分の考えをまとめ、各1600字あるいはそれ以上でも結構であるが、わかりやすく記載すること。ただし、レポートテーマに沿った記載をすること。

科目修得試験：レポートについて添削指導を受け、合格したうえで科目修得試験を提出する。

教科書

- (1) 「社会福祉学習双書」編集委員会 『社会福祉学習双書 医学概論 保健医療と福祉』
2022 全国社会福祉協議会

参考文献

- (1) 千代 豪昭・黒田 研二 『学生のための医療概論』医学書院 1999年
- (2) 江川 寛 『医療科学第2版』医学書院 2000年
- (3) 砂原 茂一 『リハビリテーション』岩波新書 1986年
- (4) 『系統看護学講座専門基礎2 解剖生理学』医学書院 1996年

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。